

特集 学生の研究活動報告－国内学会大会・国際会議参加記 27

ASEAN グローバルプログラム に参加して

山本 涼平
Ryohei YAMAMOTO
環境ソリューション工学科 2年

1. はじめに

2017年8月29日から9月6日までの9日間、ベトナム（ハノイおよびその周辺）とシンガポールにおいて ASEAN グローバルプログラムという研修に参加した。この研修の目的は、海外経験を持ち、考え方や物の見方（視野）を広げることであった。具体的な研修の日程を表に示す。

表 研修の日程

8月29日（火）	ベトナム入国（ハノイ） オリエンテーション（ホテル）
8月30日（水）	企業訪問（3企業）
8月31日（木） 9月1日（金）	ハノイ工業大学において 現地学生との PBL および発表
9月2日（土）	博物館見学等、自由時間
9月3日（日）	ベトナム出国、シンガポール入国 博物館見学等
9月4日（月）	南洋理工大学において キャンパスプログラム
9月5日（火）	トークセッション（2名） ビジネスパーソンとの交流会
9月6日（水）	自由時間（オプションツアー） シンガポール出国
9月7日（木）	帰国

2. 研修に参加した目的

私がこの研修に参加するにあたって目的としたことは2つある。1つは、「日本と海外の常識の違いを知る」である。私たち日本人は、今まで何気なく日本で暮らし、自分では気づかない間に日本の常識が体に染みつき、その常識にとらわれて無意識にもごとの考え方や行動を制限してしまっているの

はないかと思っていた。そこで、海外での生活を体験することで日本と海外の常識の違いを知り、自分の考え方や行動の幅を広げたいと思った。

もう1つは、「発展途上国の現状を知る」である。私の発展途上国に対するイメージとは、先進国に劣り、治安も悪いなどの悪いイメージが多かった。しかしそれだけではないかもしれないという考えも持っており、発展途上国とは本当はどんな国で、どんな人が住んでいるのかを実際に自分の目で確かめてみたいと思った。

3. 主な研修内容

ベトナムでは、Takagi Vietnam, Rikkei Soft, NTQ の3企業の訪問や、ハノイ工業大学の学生との PBL、戦勝記念博物館、歴史記念博物館、かつてベトナム最古の大学があった文廟の訪問などを行った。シンガポールでは、国立博物館の見学やアジアでトップレベルの南洋理工大学において授業やラボの見学、ビジネスパーソンのトークセッションや彼らとの交流などを行った。また、それぞれの国では自由時間もあり、班で自主的に行動する時間もあった。

4. ベトナム人学生との PBL

この研修の中で私は特に、PBL について報告する。8月31日と9月1日の2日間にわたり、私たちはベトナムのハノイ工業大学の学生と PBL を行った。PBL とは、Project Base Learning の略称であり、与えられたテーマに従ってチームで協働し、コンセンサスを得たアウトプットを制限時間内で出す、組織で仕事をする場合に近い形で仮想ワークを体験する手法である。今回は、「ベトナム人若年層の美意識調査」というテーマで PBL を行った。PBL 初日に、私の班（5人）に加わる女性のベトナム人学生2人と顔合わせをした。彼女らはとてもフレンドリーに接してくれたので安心した。しかし、調査のための話し合いが始まると言葉の壁にぶつかった。彼女らの流ちょうな英語になかなか対応でき

ず、話し合いがスムーズに進まなかった。結局、調査のためのアンケート作成はほとんど彼女ら2人に任せきりになってしまった。大学内とホアンキエム湖周辺で調査をしたときも、私はただついていだけでほとんど何もできず情けない気持ちになった。そんな私を横目に、彼女らは何の躊躇もなく教室に入り、堂々と大人数の学生の前に立って調査の協力を依頼したり、町の全く知らない人もまるで知り合いであるかのように会話をするのを見て、彼女らの積極性に驚かされるとともに、自分がいかに消極的であるかを思い知らされた。そして初日のPBLが終わり、その夜、明日は自分の考えを知ってほしいと思い、言いたいことを英語で文章にして翌日に彼女らにそれを見せると、ちゃんと理解してくれて、話し合いは前日よりスムーズに進み、新しく作成したアンケートも納得できるものとなった。そして調査が終わり、残り少ない時間でアンケート結果を集計し、発表できる状態にするというのはかなり大変だった。しかし、最後まで終えることができたときの達成感は格別であった。PBLでは自分を情けなく思う場面がたくさんあったが、振り返ってみるとそれも含めて充実し、とても楽しいものだったと感じる。

5. 研修を終えて

今回の研修ではたくさんの経験をする事ができた。ベトナムでは、車両の間をすり抜けないと道を渡ることができなかつたり、水道水は飲めなかつたり、常にひたたくりに気を付けなければならなかつたりと日本では非日常といえるものに出会った。しかし、ベトナムに住む人にとってそれは常識である。このことから、自分が常識だと思っていることは実はそうではないことがあるということ学んだ。そして、時には常識を捨てることは必要だと思った。常識を捨てることによってものの見方が変わって考え方や行動の幅が広がり、これからの活動に役立てていくことができると思う。

次に、発展途上国は自分のイメージとは違うと思

った。ベトナムは、道にごみが散乱していたり、横断歩道が渡りにくかつたり、衛生面で問題があつたりなどと日本に比べて劣る部分がたくさんあつたが、常に屋台が立ち並び、毎日がお祭りのようで活気があつた。また、建設中のビルがたくさんあり、急速に発展していることを実感できた。シンガポールは、道がきれいで治安も良く、交通機関も整つていてとても過ごしやすかつた。このように、自分が来る前に持っていたイメージと事実は異なることがあることを学んだ。そして、気になったことは何事も自分で確かめることが大切だと思つた。知らなかつた事実を知ることで、新たな疑問が生まれ、その疑問を解決するという作業を繰り返すことで自分の知識を深めることができると理解した。

最後に、活動する上で最も必要な力は積極性であることを学んだ。たとえ英語が不十分でも、積極的に話しかければ言いたいことは伝わるし助けてくれる。行動して失敗することを恐れて何もしなければそのことにも気づかず、何も得ることが無いだろう。社会が求めるのは受動的な人間ではなく能動的な人間だと思う。私は、これからの活動では積極的に行動し、能動的な人間を目指していきたいと思う。

6. おわりに

今回の研修では、今まで私が体験したことのないことをたくさん体験でき、たくさんの課題が見つかつた。また、海外に強い興味を抱いたため、大学生の間にもっと語学力を磨き、機会があれば1人での海外旅行にも挑戦してみたいと思う。また、私は将来したいことも決まっておらず就職をどうしようか迷っていたが、海外で働くという選択肢があることを知り、海外で就職し、働いてみたいと思えるようになった。研修で得た貴重な経験を決して無駄にしないようにこれからの活動に生かしていきたい。そして何より、今回の研修は多くの人々の支えがあつて実現したものである。このことを決して忘れないようにしたい。